

山行報告 屋久島縦走

【山城】屋久島

【日時】2016/10/24～2016/10/26 2泊3日

【参加者】川口(単独行)

【天候】晴れ

2016年10月24日～26日にかけて、2泊3日で屋久島を縦走していました。初日から最終日までの行程を振り返りつつ写真と共にまとめてみたいと思います。

10月24日。この日は伊丹空港から屋久島へ直行便で向かうため、まずは新大阪に向かいました。北海道のときと同じく、今回も前職で貯めたマイルのおかげで飛行機代は無料！助かります。新大阪から伊丹空港へはバスで移動し、チェックインを済ませいざ屋久島へ。



屋久島に到着したあとは、バスに乗り換え宮之浦港へ。宮之浦港からさらにバスに乗り換え白谷雲水峡へ向かいますが、乗り換えに1時間あったので近くの観光センターに情報を入手しに行きました。受付で登山届を出し掲示板などを眺めていたら時間になったのでバスに乗り白谷雲水峡へ。この日は曇ったり小雨になったりと不安定な天気でしたが、小屋に着くまで雨合羽を出す必要はありませんでした。



こんな沢や、苔むした森の中を進んでいきます。16 時台には小屋に着き、自分だけかと思っていましたが既に到着しており近くを回っていたという男性一名と外国人の男女二名があとから到着し、屋久島一夜目は自分含め四名で過ごしました。

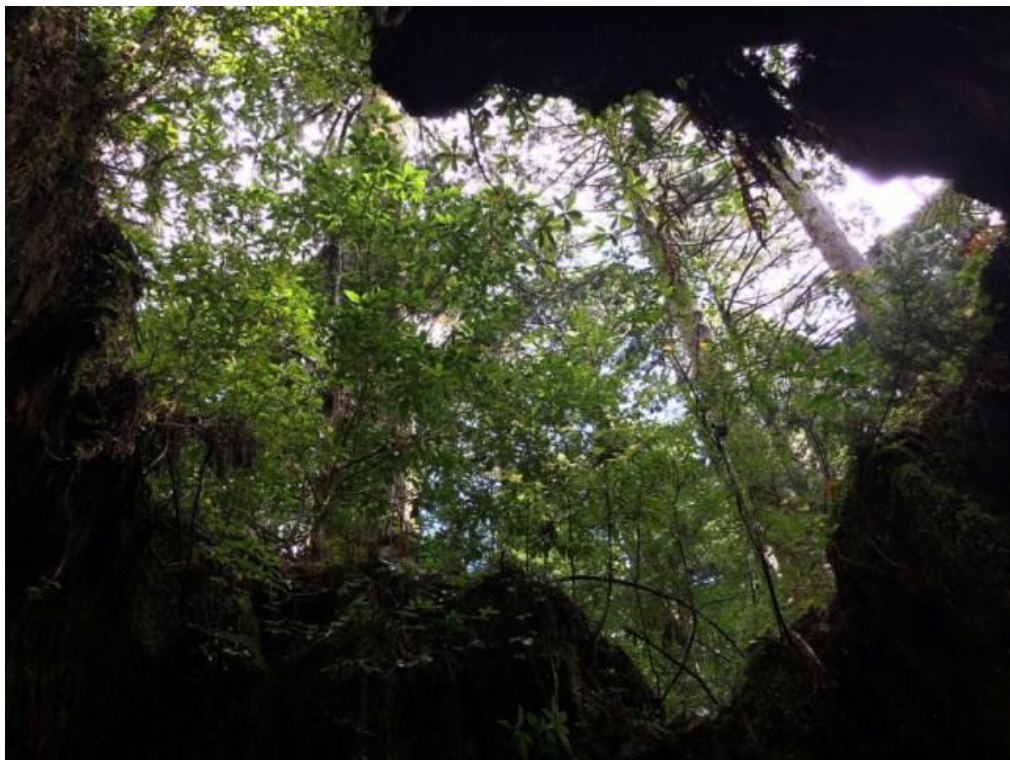
2 日目。5 時過ぎに外に一度出てみると満天の星空でしたがまだまだ真暗で、この日は行程も余裕だったのでもう少し明るくなるまで待つことにしました。そして 6 時、少し空が明るくなってきた頃に出発し、途中でガイドさんに連れられた男女や単独で来ている男性など何名かとすれ違いつつ、太鼓岩と呼ばれるスポットへの分岐点に到着。全く情報を仕入れずに屋久島入りしたので太鼓岩についても知りませんでした。標識に展望スポットと紹介されていたので行ってみることにしました。15 分くらい坂を登ってみると…



鬱蒼とした森から、突然絶景が現れたときには心底驚きました。あまりにも絶景過ぎて、1 時間くらい滞在していたと思います。山頂に雲が引っかかっている山が今回の旅の目的地・宮之浦岳です。ずっと太鼓岩にいるわけにもいかないので、後ろ髪を引かれつつも出発。少し進むと楠川分れという分岐点に差し掛かり、そこからは有名な(あとから知りましたが)トロッコ道です。



トロッコ道を楽しく歩いていると、大株歩道入口というポイントに突き当たり、ここから急に傾斜がきつくなります。この先にはウィルソン株や縄文杉など、屋久島の有名な観光スポットがありますが、ガイドに連れられたグループの観光客があまりにも多く、あまり長居せずサラッと見て通過する程度に留めました。



縄文杉を通過した辺りから急激に人が少なくなり、高塚小屋を通過する辺りでは殆ど人がいませんでした。むしろ人よりも猿の方が多かったような気がします。

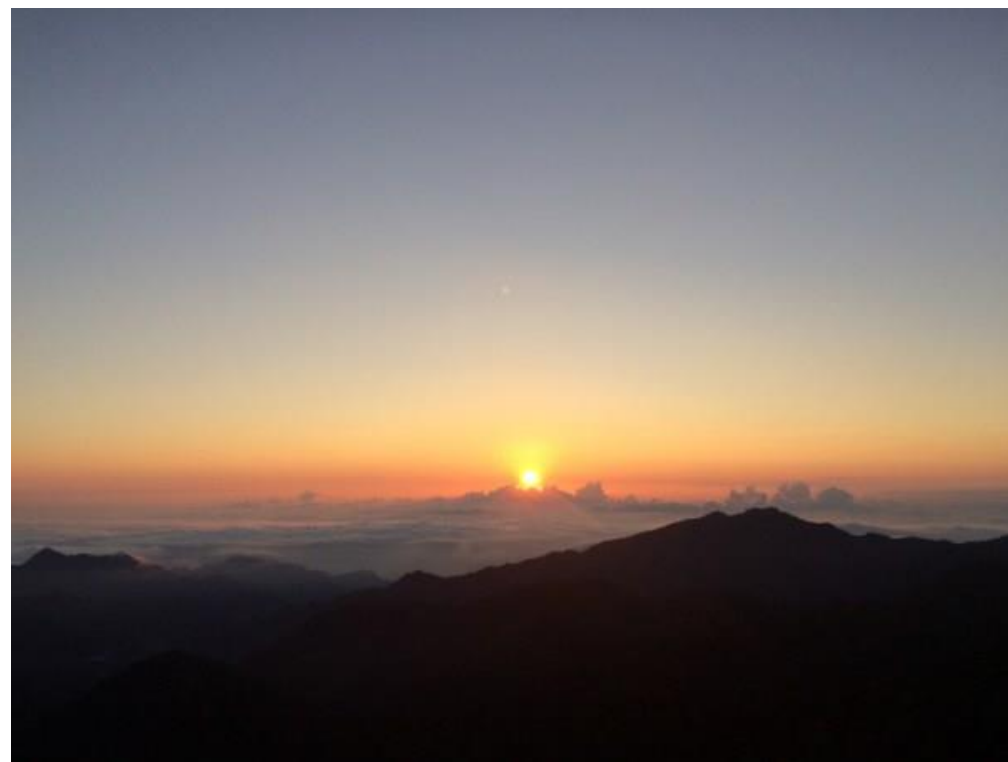
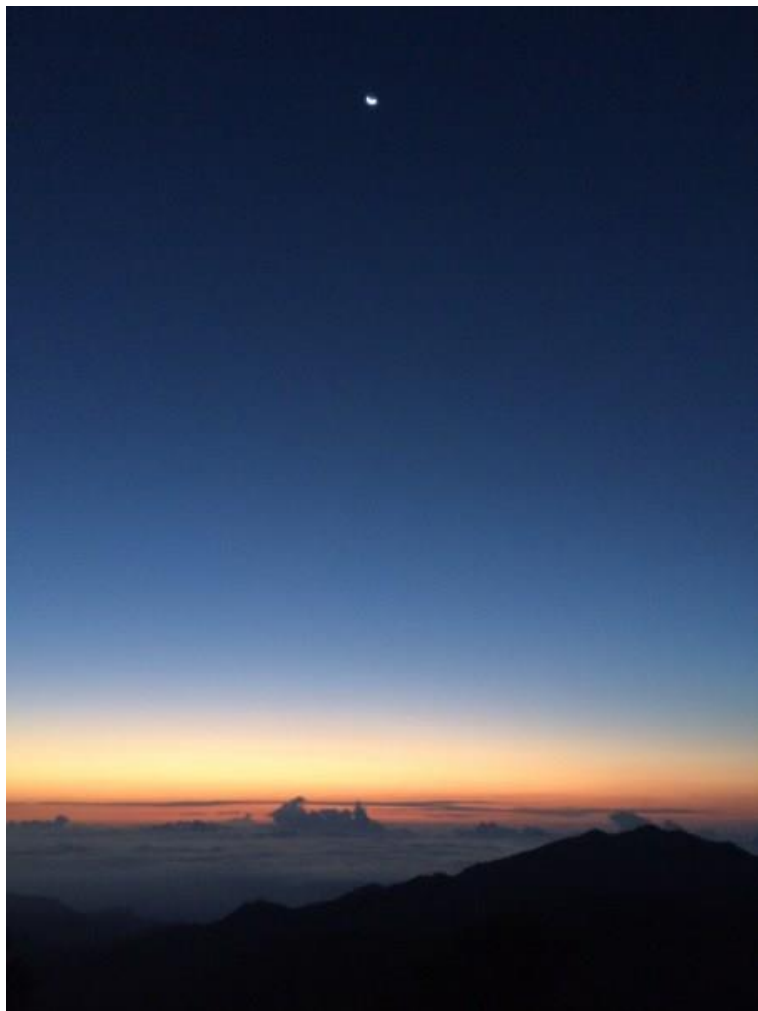


屋久島にいる動物は人間に対する警戒心があまりないのか、近づいても音を立てなければ全然逃げていきません。鹿に囲まれるのも嫌だな、と思い熊避けの鈴を鳴らしながら歩いていたら、ガイドさんから「鹿が逃げていってしまうので、熊避けの鈴は外して頂くようお願いいたします」というような指示を受けるくらいでした(どんな指示だ、とも思いましたが)。

高塚小屋を通過し、この日の目的地の新高塚小屋に着いたのは13時ちょっと前。先客が5名おり静かな方たちで「助かった～」と思っていましたが、そのうちの一人に話しかけてみると「昨夜は淀川小屋に大勢おり、おそらくこっちに向かっているのだからかなりの人数になってしまうかも」という嫌な情報を取得。その言葉通り、少ししたら騒がしい団体さんが現れ小屋は一気に満員。その後もどんどん人が増えて小屋はごった返していました。持参した小説2冊を一気に読破し、目が疲れてきたので18時台に就寝・・・しようと思ったのですが、隣のおじさんの怪獣のようなイビキのおかげで全く寝付けず、19時半くらいまで頑張りましたが諦めて小屋の外にテントを張ることにしました。

テントを張り、中で横になるとようやく落ち着いて寝られる静寂が訪れました。翌日は今回の旅の核心、永田岳～宮之浦岳～黒味岳の縦走。天気が曇りという情報もあり、夜寝付く前に一回雨が降ったような気もしましたが、早朝に目覚めると満天の星空でした。

3 日目。さすが南の島、屋久島はまだまだ暑く、持ってきたアウターは殆ど使う機会がなく山行中は半袖で十分なくらいでした。今思えば寝袋ももっと薄手でよかったと思います。それはさておき、この日は支度をして 5 時に出発。この日も前日と同じく 6 時過ぎまで真暗だろうな、と思っていましたがやはり真暗で、その時間から宮之浦岳方面に向かう人は誰もおらずかなり心細かったのですが、屋久島は熊が出ないので普段より気楽に進めました。第一展望台、第二展望台、というスポットがあるはずですが第一展望台はいつの間にか通り過ぎており、気付いたら第二展望台に辿り着いていました。時間は 6 時前後、ちょうど夜と朝の狭間だったようで、上空には月、地平線(雲がありました)が下は水平線?)の彼方はうっすらと明るくなっている幻想的な光景が広がっていました。ここから少し歩き、平石岩屋というスポットに到着したところで夜が明けました。そこにいたのは自分ひとり。息を呑むくらいの絶景を、ひとりで心行くまで満喫しました。





夜明けの宮之浦岳。今回の旅で一番気に入っている写真です。



左の写真はモルゲンロートに輝く永田岳、カッコいい形状の山でした。少し歩いて振り返ると、そこにも幻想的な光景が(右写真)。そんな光景に心を奪われながら、少し進むと永田岳への分岐点に辿り着きました。そこにはザックがデポされており、そこで初めてこの朝自分より早く動いていた人がいたことを知りました。その人に倣い俺もザックをデポし、永田岳へ。この時点でコースタイムよりもかなり早いペースで動いていたため、このペースなら 14:50 に紀元杉のバス停から安房へ向かうバスに間に合うのでは？というのが頭に過ぎっており、永田岳へも少し速めに歩いていきました。今思えば、というより永田岳に向かいながら何度も思いましたが、ザックをデポしたときに雨合羽のズボンを履いておくべきでした。というのも、永田岳へ向かう道が思った以上に凄まじく笹に覆われており、朝露か前日の雨の影響か分かりませんがどの笹も水滴まみれ。おかげでインナーまでびしょ濡れになりました。そんな永田岳への道ですが、途中でザックをデポした人に追いつき、誰かと思ったら前日新高塚小屋にいた人でした。向こうも気づいたようで、「あ、ずっと小説読んでいた人ですね」なんて言われる。そうか、そういう印象になるんだなー、なんて思いつつ、その人と共に山頂へ。永田岳から見る景色は、種子島まで見渡せる絶景でした。



前ページ上写真、左奥にうっすら見えているのが種子島です。そこから振り返ると、中央に宮之浦岳が聳えています(前ページ下写真)。今回の旅で「山頂から海が見える山を巡っている」人にも出会い、そんな山旅も面白いな一、なんて思いました。利尻岳、鳥海山、白馬岳、富士山、永田岳・・・などなど。他にもまだまだありそうです。さて、永田岳を満喫したあとは笹でびしょ濡れになりながらデポしたザックまで戻り、少し休憩し宮之浦岳に向けて出発。到着した宮之浦岳からの展望は永田岳ほどではなく、それよりもそこに百名山をこの日の宮之浦岳で達成した人がおりその人のほうが印象に残っています。4年前に99座目まで登っており、宮之浦岳に来るのに4年かかってしまった、のだとか。

宮之浦岳から先は基本的に下りで、途中東北から来た方と長話などして余裕こいていましたが、後から追いついてきた永田岳と一緒に登った方に「あれ、黒味岳まで行ってそこから紀元杉ですよ？」と言われ、余裕こきすぎた、と気づき少し急ぎ目に黒味岳へ。黒味岳山頂は少しガスっていましたが、山頂にいた女性曰く「ついさっきまでガスっていたけど今は見通しが良くなっています」とのこと。雨ばかりと言われる屋久島で連日快晴というのは運がいい。



黒味岳から一気に下り、分岐点でデポしたザックをピックアップしそのまま急ぎ足で向かった淀川小屋に到着したのは13時前。もともとの計画ではこの小屋にもう一泊して尾乃間歩道を下山の予定でしたが、この小屋も日によっては満員になるという話を聞いており、さらに翌日尾之間歩道を下山のためだけに8時間も歩きたくないな～、と思っていたので、予定を変更し下山することに。紀元杉のバス停にはあつという間に到着し、そこには永田岳と一緒に登った方やそのあと何度かすれ違った方がおり「速いですね～」なんて言われる。確かに、本来のコースタイムだと17時くらいに着くところに14時に着いていたのは自分でも驚いたし、しかもこれでも途中余裕をかましていたくらいでした。とはいえ、5時スタートの14時着、さらに少し飛ばして歩いたので足に結構な疲労が溜まっており、早く宿に落ち着きたい気分でした。時刻どおりにバスが来て、安房に到着。翌々日借りる予定だったレンタカーを翌日からに変更し、宿にも電話を入れバスを乗り換えて再出発。泊まった宿は個室、ドミトリー、テント、と選べましたが、この日は夜から雨予報だったのでドミトリーにすることに。近所のスーパーでお酒を買って、一日を振り返りつつ宿にあった小説を読みながら晩酌。最高の縦走となったこの日はこうして幕を閉じました。